

◎昭和47年度第4回理事会議事録(47.9.26)出席者:岡本会長,石川,坂野(委任状),篠原,横道(委任状)の各副会長,下村専務理事,足立,浅間,荒木,市田,小山内(委任状),大塚,岡田(委任状),叶(委任状),後藤(委任状),鈴木(委任状),田辺(委任状),長尾(委任状),林(委任状),平嶋(委任状),福岡,細井,松本,三浦(委任状),吉田の各理事。議事録署名理事の決定:岡本会長,石川副会長,下村専務理事。A.報告事項:1)会計報告;下村専務理事から概略説明があり,了承。2)刊行物頒布報告,3)各種委員会その他報告の2件については説明を省略して了承。4)支部長・幹事長会議報告;下村専務理事から,去る8月29日(火)に①会員の増加,勧誘の具体的方法について,②会員は学会に対してなにを求めているか,をテーマとして開催した支部長・幹事長会議の議事概要および審議経過について説明があった後,理事会としては会議の結果をどう生かすべきかについて種々論議された結果,新しい入会の手引きの作成・配布など手じかに処理し得るものから順次実施することとし,とりえず支部長・幹事長会議の概要をまとめて各理事,監事に配付することにまとめた。5)会務担当(総務・経理)理事会報告;下村専務理事から,吉田賞選考委員会の申出により去る9月6日(水)に「吉田徳次郎博士記念基金のとりくずしについて」を議題として同委員会委員長,副委員長ほかの出席を求めて開催された会務担当(総務・経理)理事会について,大要次の報告があり,了承。

吉田賞選考委員会からの申出趣旨は,最近の学界の傾向にかんがみ,吉田研究奨励金を重点的,かつ,相当増額して授与する必要があると考えられるが,この財源とするために吉田徳次郎博士記念基金をとりくずすことの可否を審議願いたいというものであるが,審議の結果は結論を得るに至らず,吉田賞選考委員会で改めて検討することになった。なお,昨9月25日開催の第1回委員会で審議したが,さらに来年3月開催予定の第2回委員会で検討することになった。

6)土木学会賞各委員会構成報告;下村専務理事から資料により説明があり,了承。7)日中土木技術交流協会について報告;岡本会長から,日中土木技術交

流協会の要請により同協会主催懇談会に出席した際に,同協会加盟学協会は7団体で,会費は5万円であることの説明があった旨の報告があった。8)昭和48年度全国大会の概要報告;篠原副会長から,来る10月20日~22日に九州大学で開催する昭和47年度全国大会の概要について報告があった。B.協議事項:1)欧文論文集について;下村専務理事から,資料により欧文論文集の発行経緯,現状,特に相当数の残部の在庫品をかかえ,赤字の累積している状況について説明があり,次いで特に出席を求めた前田幸雄前論文集編集委員会委員長の補足説明があった後,今後の取扱方について種々論議された結果,次のとおり決定;①1編2ページの概要集として継続出版する。②新規分はもちろん,既発行の在庫分を利用して積極的にPRし,販売数の増加に努める。なお,論文集編集委員会にPR先を選定してもらうこととする。2)東レ科学技術賞候補者の推薦について;事務局長が財団法人東レ科学振興会からの依頼書を朗読した後,下村専務理事から,関係大学および研究所へ推薦方を依頼したところ,現在までに1件推薦回答があった旨の説明があり,論議された結果,土木学会として推薦することに決定。3)その他;①昭和48年度科学研究費補助金の配分にかかる審査委員候補者の推薦について;下村専務理事から,日本学術会議から例年のとおり課題の候補者推薦方の依頼があったので,調査研究部門会務担当理事会に大学関係の理事の出席を求め原案作成の後,理事会で審議することしたい旨の提案があり,異議なく決定。なお,会務担当理事会は,来る10月31日(火)の第5回理事会の1時間前に開催することを了承。②会員入退会について;説明を省略して了承。

#### ◎各種委員会

(1) 海外活動委員会 幹事会(47.8.11)出席者:椎貝幹事長代理,ほか7名。議事:1)前回幹事会報告。2)Civil Eng. in Japanの編集について。3)委員会の今後の検討事項について。

(2) 青函トンネル土工研究委員会土工小委員会(第4回)(47.8.12)出席者:嶋小委員長,ほか16名。議事:1)測定坑の計画について。2)現地視察について。

(3) 岩盤力学委員会第1分科会地質打合せ(47.8.15)出席者:広瀬主査,ほか5名。議事:地質調査に関する解説書

(出版物)の原稿の検討及びとりまとめ。

(4) 鋼構造委員会鋼構造架設小委員会幹事会(第1回)(47.8.15)出席者:菊池委員長,山木幹事長,ほか6名。議事:1)第1回小委員会議事録の確認。2)今後の運営方法,作業方法等について。3)その他。

(5) 海洋構造物に関する調査研究委員会主査幹事会(47.8.16)出席者:村上委員長,ほか5名。議事:1)昭和47年度活動方針について。2)昭和47年度委員会構成について。

(6) トンネル工学委員会運営小委員会(47.8.16)出席者:住友委員長,坂本副委員長,ほか8名。議事:1)トンネル工学委員会構成について。2)国際トンネル協会定款および国内運営機関の設置について。

(7) 論文集編集委員会第1小委員会(47.8.16)出席者:岡内主査,ほか9名。議事:1)前回小委員会報告。2)査読報告。3)新規受付原稿について。4)主査幹事会報告。5)その他。

(8) 本州四国連絡橋耐震研究小委員会第1グループ打合せ(第10回)(47.8.17)出席者:久保委員長,ほか6名。議事:本年度の地震観測について。

(9) 論文集編集委員会第5小委員会(47.8.17)出席者:関係者7名。議事:1)前回小委員会報告。2)査読報告。3)新規受付原稿について。4)主査幹事会報告。5)その他。

(10) 海外工事契約・示様書研究会(47.8.18)出席者:吉越主査,ほか15名。議事:テキスト第15章につき検討協議を行なった。

(11) 琵琶湖の将来水質に関する調査小委員会打合せ(47.8.18)出席者:岩井委員長,ほか5名。議事:委員会調査方針について。

(12) 論文集編集委員会第3小委員会(47.8.18)出席者:久野委員長,稲田主査,ほか7名。議事:1)前回小委員会報告。2)査読報告。3)新規受付原稿について。4)主査幹事会報告。

(13) 論文集編集委員会第4小委員会(47.8.18)出席者:松本主査,ほか5名。議事:1)前回小委員会報告。2)査読報告。3)新規受付原稿について。4)主査幹事会報告。5)その他。

(14) 行事企画委員会(47.8.21)出席者:森委員長,嶋副委員長,ほか9名。議事:1)海洋鋼構造物設計指針講習会について。2)全国大会運営手引きについて。3)夏期講習会について。4)秋のエキスカッションについて。

(15) 論文集編集委員会第2小委員会(47.8.23) 出席者:室田主査,ほか6名。報告:1) 前回小委員会報告。2) 査読報告。3) 新規受付原稿について。4) 主査幹事会報告。5) その他。

(16) 論文集編集委員会主査幹事会(47.8.23) 出席者:久野委員長,室田副委員長,稲田,岩間の各主査,ほか4名。議事:1) 前回議事録の確認。2) 審小委員会報告。3) 論文報告集第207号登載原稿について。4) 査読依頼状の修正について。5) 査読報告書の修正について。6) 欧文論文集について。7) その他。

(17) 青函トンネル土工研究委員会第1回委員会および現地視察(47.8.23~26) 出席者:岡本委員長,ほか24名。議事:1) 土工小委員会経過報告。2) 試験坑計画について。3) その他:電飛建設現場の視察。

(18) コンクリート委員会コンクリート標準示方書改訂小委員会第2分科会(47.8.24) 出席者:西沢主査,ほか5名。議事:1) 条文の執筆担当について。2) 問題点について。

(19) 岩盤力学委員会グラウト班幹事会(47.8.24) 出席者:関係者3名。議事:ダム基礎岩盤のグラウティング施工実例集の原稿のとりまとめ。

(20) 沈埋トンネル耐震設計研究委員会幹事会(47.8.25) 出席者:後藤委員,田村幹事長,ほか14名。議事:沈埋トンネル耐震設計指針原案の審議。

(21) プレストレストコンクリート設計施工指針改訂小委員会設計分科会(47.8.25~26) 出席者:猪股主査,ほか10名。議事:設計編の逐条審議を行った。

(22) 本州四国連絡橋綱上部構造研究小委員会座屈分科会(第9回)(47.8.28) 出席者:関係者13名。議事:主塔設計要領について。

(23) 下水汚泥の処分方法に関する研究小委員会熱処理分科会(47.8.28) 出席者:左合主査,ほか6名。議事:本年度の調査方針について。

(24) 会誌編集委員会(47.8.28) 出席者:天野委員長,ほか20名。議事:1) 経過報告。2) 受付原稿査読。3) 来期待集計画協議。4) 58巻第1号の編集について協議。5) その他。

(25) 岩盤力学委員会第3分科会(47.8.29) 出席者:川本主査,ほか14名。議事:1) 前回議事録の確認。2) 岩盤研究会の題目および講演者について。3) 岩盤試験法の基準化について。4) 講演「現地載荷試験時における岩盤の挙動特性の測定」。5) その他。

(26) コンクリート標準示方書改訂小委員会第11分科会(47.8.29) 出席者:野口主査,ほか4名。議事:コンクリート標準示方書のうちプレパックドコンクリートに関する条項につき検討した。

(27) 終局強度設計小委員会幹事会(47.8.29) 出席者:河野主査,ほか5名。議事:1) 設計用値について。2) 基礎事項について。

(28) 岩盤力学委員会主査幹事会(47.8.29) 出席者:飯田副委員長,ほか4名。議事:1) 議事録の確認。2) 各分科会経過報告。3) 研究会実施計画について。4) 第8回岩盤力学に関するシンポジウム開催について。5) その他。

(29) 本州四国連絡橋耐震研究小委員会第9回委員会(47.8.29) 出席者:久保委員長,ほか26名。議事:1) 耐震設計指針(案)について。2) 今後の開催予定について。

(30) 本州四国連絡橋耐震研究小委員会実験橋作業分科会(第10回)(47.8.29) 出席者:岡内主査,ほか10名。議事:耐風実験橋について。

(31) 大学土木教育委員会第23回幹事会(47.8.30) 出席者:奥村委員長,山口幹事長,ほか4名。議事:1) 大学土木教育に関するアンケート集計結果の最終審議。2) 委員会開催について。

(32) 本州四国連絡橋綱上部構造研究小委員会解析分科会(第6回)(47.8.30) 出席者:大地主査,ほか12名。議事:トラスのねじり解析について。

(33) 橋梁年報編集委員会(47.8.31) 出席者:阿部委員長,ほか3名。議事:「橋1971~1972」の編集作業を行った。

(34) 原子力土木委員会耐震部会(47.9.5) 出席者:岡本部会長,ほか12名。議事:1) 取放水路関係報告書目次案と各社における問題点について。2) 安定計算結果の検討について。3) 地盤内応力計算(FEM)の条件について。4) 機器配管系に関する問題点と今後の検討方法について。5) 報告書,目次,各章,節,項目のまとめに関する事項。6) その他。

(35) 図書館運営小委員会(47.9.5) 出席者:園田委員長,ほか2名。議事:1) 国際会議論文集収集状況について。2) 昭和47年度土木図書館予算について。3) その他。

(36) 鋼構造委員会鋼構造架設小委員会第2回幹事会(47.9.6) 出席者:山本幹事長,ほか6名。議事:1) 資料調査の中間発表。2) 調査シートについて。3) 縮小委員会について。

(37) 会誌編集委員会書評委員会(47.9.6) 出席者:鮎川委員長,ほか9名。議事:1) 経過報告。2) 受付図書審査。3) その他。

(38) 文献調査委員会(47.9.7) 出席者:伊藤委員長,ほか8名。議事:1) 会誌57巻11号登載抄録について。2) 紹介記事について。3) 抄録委員について。4) 解説記事について。

(39) 海洋構造物に関する調査研究委員会(47.9.8) 出席者:村上委員長,ほか23名。議事:1) 委員長挨拶。2) 昭和46年度経過報告。3) 昭和47年度委員会,分科会構成について。4) 昭和47年度活動方針について。5) その他。

(40) 鋼構造委員会鋼構造進歩調査小委員会準備会(第2回)(47.8.9) 出席者:関係者6名。議事:1) 前回議事録の確認。2) 研究テーマに関する原案の検討。3) 予算(案)ならびに今後の小委員会の運営方法について。

(41) 原子力土木委員会立地部会(47.9.8) 出席者:関係者10名。議事:1) 経過報告。2) 研究中間報告および討議:①事故解析計算コードについて,②F-P 挙動実験について,③地下立地資料について。3) 今後の研究方針について。4) 実験装置見学。

(42) 視聴覚教育委員会選定映画審査会・第2小委員会(教材収集)(47.9.9) 出席者:綾幹事長,ほか9名。議事:1) 選定映画応募作品3本の審査を行なった。2) 「土木技術フィルムリスト」作成について。

## ◎その他

(1) 昭和47年度岩の力学研究連合委員会第1回幹事会(47.8.15) 出席者:関係者7名。議事:1) 昭和46年度事業報告および会計報告。2) 新委員会構成(案)について。3) 昭和47年度事業計画および予算(案)。4) ISRM について。

(2) 構造物の耐風性に関する第2回シンポジウム第2回組織委員会(47.8.16) 出席者:仲委員長,ほか10名。議事:1) 特別講演について。2) 原稿執筆要領について。3) 予算(案)について。4) 応募論文の確認およびプログラムの作成。5) 参加募集方法について。

(3) 膨張性セメント混和材を用いたコンクリートに関するシンポジウム(47.8.24)

場所:土木図書館講堂  
参加者:約200名  
講演数:24件

(4) 昭和 47 年度夏期講習会 (47.8.30~31)

場所: 厚生年金会館小ホール

参加者: 551 名

講演数: 12 件

(5) 第 5 回土木計画学講習会 (東京会場)

日程: 昭和 47 年 9 月 4 日~5 日

会場: 土木図書館講堂

参加者: 141 名

(6) 第 5 回土木計画学講習会 (大阪会場)

日程: 昭和 47 年 9 月 11 日~12 日

会場: 大阪科学技術センター 401 号室

参加者: 138 名

## 支部だより

### ◎東北文部

(1) 見学会 (47.10.4)

見学先: 東北縦貫高速道路工事および蔵王エコーライン

参加者: 45 名

(2) 映画会 (47.10.6)

会場: 日立ファミリーセンター

映画: 5 巻 参加者: 85 名

(3) 第 4 回昼食会 (47.10.12, 支部事務局)

出席者: 河上顧問, ほか 8 名。

講演: 東北道施工上の 1,2 の問題について 日本道路公園道路仙台建設局長 玉田茂芳

ほか事務局報告

### ◎関西支部

(1) 第 1 回見学会 (阪神高速道路南港連絡橋見学会) (47.9.8)

共催: 土木学会関西支部・土質学会関西支部

見学先: 阪神高速道路公園南港連絡橋

1. 大型ケーソン頂版 コンクリート

2. 鋼管井筒

参加者: 103 名

参加費: 300 円

(2) 「土木工事の積算」講習会 (48.8.2~4, 大阪科学技術センター)

主催: 土木学会高校土木教育研究委員会

共催: 西日本高校土木教育研究会, ほか 2 団体

後援: 土木学会関西支部

題目: 3 題 演習, 見学 (中国縦貫道, 神戸ポートアイランド, 大阪南港大橋)

参加者: 87 名, 見学会参加者: 54 名

(3) 第 5 回土木計画学講習会 (大阪会場) (47.9.11~12, 大阪科学技術センター)

主催: 土木学会土木計画学研究委員会

後援: 土木学会関西支部

主題: 土木計画における費用便益分析

題目: 6 題, 参加者: 138 名

(4) 第 5 回 (昭和 47 年度) 業務研究発表会 (47.8.29, 大阪科学技術センター)

共催: 建設コンサルタンツ協会大阪支部, 建設技術センター

後援: 土木学会関西支部

特別講演: 1 題, 業務研究発表 10 題, 研究委員会発表報告 4 題, 映画・スライド 30 編

参加者: 422 名

(5) 企画・計画担当幹事会 (第 3 回) (47.9.6, 土木学会関西支部)

出席者: 柳瀬支部長, 後藤幹事長, ほか 11 名。

(6) 出版物編集担当打合せ (第 1 回) (47.8.23, 土木学会関西支部) 出席者: 後藤幹事長, ほか 4 名。

(7) 事務所運営打合せ (第 2 回) (47.9.12, 土木学会関西支部) 出席者: 土木学会, 土質工学会より関係者 6 名。

(8) 第 1 回見学会打合せ (47.9.4, 土木学会関西支部) 出席者: 関係者 7 名。

(9) 第 71 回騒音振動委員会 (47.8.29, 土木学会関西支部) 出席者: 関係者 7 名。

(10) 騒音振動委員会幹事会 (第 68 回) (47.8.29, 土木学会関西支部) 出席者: 畠山幹事長, ほか 4 名。

## 編集後記

———中村英夫・記

“鉄道 100 年” を迎えた今年にはわが国はもとより世界的な意味においても交通機関にとって新しい転換を画する年でもあるように思われる。混雑, 公害をはじめとする現代の交通のかかえる多くの問題は, 既成の交通手段によっては根本的な解決は至難であるという認識が急激に高まり, 全く新たな手段を開発する必要に迫られてきた。

本年 5 月のワシントンにおけるトランスポ (交通博覧会) はこのような新しい手段に人々の目を向けさせ, その開発促進の一つの契機としての

意味をもつように思われる。新しい交通機関は, 現在のところその車両の開発にのみ目を向けられているが実際にその実用性が議論される場合, 一つの大きな評価因子は路線の建設の経済性であり, 設置の難易であり, また, その地域に与える影響である。トランスポに併行して行なわれた交通関係学会合同の国際シンポジウムにおいて, 宇宙ロケット開発の中心であったフォン・ブラウン博士は, NASA は人材と技術を今後地上に指向させ, トンネル掘削技術の開発等に努力すると述べた。

このような意味で, 新交通システムにおける土木技術の果たすべき役割は非常に大きなものであるといえる。新交通システムは文字通り一つ

のシステム開発である。これを構成する重要なサブシステムは, 地域であり, 路線である。土木技術者がその専門の分野とするサブシステムにおいて貢献すると同時に, 車両, 制御といった他のサブシステムについての理解を深め相互間に影響し合い, 調整し合うことはこうしたシステム開発にとっては肝要であろう。

今年度の編集委員会が完全に手掛けるのは本号からである。2,3 カ月のウォーミングアップを経て, 初めてマウンドへあがったような気分でもある。いくぶんあがり気味ではあるが, はりきっていることも確かである。三振をとることはできなくても, 簡単にノックアウトをされないことを願っている。